好古小言

※［＃「さんずい＋（壜－土へん－厂）」、第3水準1-87-25］上漁史

青空文庫

古物ヲ玩ブコトハ、古キ世ヨリ今ニ至ルマデ、連綿トシテ絶タルコト無シ。人々ニシテ其ノ好ム所ハ異ナレドモ、書画鼎鐘偶像貨幣ノ類、其ノ質ノ金石木磁絹紙タルヲ問ハズ、古物ホド面白キモノハ有ラジ。サレド之ヲ愛玩スルニ就テ、論ズ可キコト亦鮮ナカラズ。今余ガ思フマヽヲ書キ綴リテ、世ノ好古家ニ質サントス。定メテ其ノ心ニ逆カフコトモ有ランナレド、ソハ余ガ一家言トシテ宥シ給ヒネ。数千百年ヲ歴タル物ハ、多ク朽腐シ或ハ欠損シテ、其ノ完存スルヲ得ルハ甚ダ鮮ナキモノナリ。然ルヲ極メテ完全ニシテ精美ナル物ヲ求ムルハ、好古ノ主意ヲ失フ者トス。サレド故サラニ穢ナゲナル物ノミヲ喜ビ選ンデ、其ノ形ノ極メテ見悪クキヲ取ル人有リ。是レ亦善カラヌ癖ナリ。

支那ノ古物ヲ愛スル人ニテ、本邦ノ古器ヲバ和臭有リトシ、又本邦ノ物ノミヲ玩ンデ、外国製ノ物ハ観ルヲモ厭フ輩モ無キニ非ズ。古物ヲ賞鑑スルニ於テ、内外ノ区別ヲ立ツルハ笑フ可キコトニテ、其ノ識量ノ狭隘ナルヲ奈何セン。

古器ヲ観ルハ徒ラニ之ヲ玩ブノミニ非ズ。時世ヲ徴シ風土ヲ察シ、工業ノ進歩如何ヲ考フル為メナレバ、泰西諸国ニハ殊ニ貴重スルコトニテ、博物館ノ如キハ観客日ニ麕集ス。是レ迄我ガ邦人ノ全ク之ヲ玩弄物トシ、甚シキニ至リテハ争テ其ノ価格ニ誇ル如キノ比ニ非ズ。我邦モ日ニ月ニ開明ニ進ム故、今日ノ古物家ガ往日ニ異ナルハ固ヨリ論ヲ俟タザル可シ。左ハ言ヘ古器ヲ玩ブハ他ノ学事ト同ジカラザレバ、古刹ノ僧侶ガ霊宝ノ伝来ヲ説クガ如ク、附会ノ説ヲ喋々スルハ甚ダ煩ハシケレバ、考証ハ固ヨリ有用ナレド、務メテ雅致ヲ失ハズ、空シク理窟ニノミ流レザルヲ可トス。

古書画ヲ玩ブ人ニ、力ヲ極メテ古代ノ物ヲ求ムル者有リ。古代ノ物程貴クシテ愛ス可キハ無シト雖ドモ、千年モ古ニシテ百年モ亦古ナレバ、只管古キヲノミ喜ブハ、贋物ヲ取ルノ憂無キニ非ズ。鑑識ニ深カヽラヌ人ハ、必ズ骨董商ノ為メニ騙セラル。是レ深ク注意ス可キコトナリ。古物ノ中ニテ書画ホド贋造多キ者ハ無シ。有名ノ古人ニ至テハ、百幅中ニ九十九幅贋物ナリト思ヘバ過失少ナシ。古印モ亦然リ。朱明ノ名家ナゾガ刻スル者、多ク我邦ニ舶来ス可キ理無キヲ熟考セヨ。

銅器陶器木製ノ物ハ、其ノ鑑識書画ニ比スレバ易シ。然レドモ其ノ時代ノ概略ヲ識ルヲ要ス。必ズ幾百幾十年、某帝ノ世ニ造リ何人ノ作ニ係ル等ハ、決シテ臆断ス可キニ非ラズ（確証有ルモノハ此例ニ非ズ）。然ルニ此鏡ハ王莽ノ鋳ル所ロ、此壺ハ義満ノ作ル所ロニ相違無シ抔ト断決スルハ、痴人ノ夢ヲ説クト一般ナリ。古銭ノ如ク紀元ヲ書セシ物ハ、一目瞭然ニ知ル可シトス。但シ古銭ハ鑑識頗ル難キモノニテ、古鏡古銅器ヲ観ルノ眼ニテ之ヲ観レバ、必ズ贋品ヲ攫ムニ至ル。是レ亦思ハザル可カラズ。

近来煎茶家ノ好古癖有ル者、皆朱泥ヲ品賞シ、其ノ形ヲ論ズル極メテ喧シ。新渡ヲ棄テヽ古渡ヲ取ルハ余モ同意ナレド、其ノ形ニ就テ、新渡ノ価五十銭ナルニ、古渡ハ一百円以上ニ価スル者有リ。世間喜デ之ヲ買フ。而シテ其ノ古渡ナル物、亦四五百年前の物ニモ非ズ。好事ノ甚シキ、万年青ヲ愛スル富家翁ノ臭味ト一様。余輩ハ与セズ。

（第二号）

我邦ノ好古先生ハ其ノ心ニ謂ヘラク、古物ヲ愛玩スルハ本邦及ビ支

那ノ如キ、雅致ヲ尚ブ国ノ風習ニテ、泰西諸国ノ如キ功利ニ汲々タル世界ニハ、夢視セザルコトナラント。是レ所謂井蛙ノ見ノミ。余ヲ以テ之ヲ観レバ、支那ハサテ置キ、我邦ホド古物ヲ疎略ニスル国ハ有ルマジト思フナリ。支那ヨリ旧ク舶来セシ器物ヲ愛玩スルヲ以テ、好古々々ト唱フルハ昔ヨリ有リシコトナレド、我邦ノ古物ヲ貴重スルコトハ、近比泰西ノ事ヲ観聴キシテヨリ、始メテ盛リニ流行シ出シタル様ニ思ハル。其ノ一証ヲ申サバ、日本古代ノ鋳銭ハ僅カ十二種ナレド、其レサヘ識ラヌ者多ク、却テ支那ノ半両五銖ノ類ノミヲ古イ銭ナリト思フ人ノミ有リキ。此比俄ニ日本古銭ヲ玩ブ人多クナリテ、其価ノ十年前ニ四五倍スル様ニナリシハ、泰西ノ風ニ化シタルナリト云フモ、失言ニハ非ザル可シ。且ツ我邦ニハ是レ迄公私トモニ、古物館ト云フモノハ一宇モ無シ。試ニ泰西ヘ往カズトモ、セメテ其ノ書冊ニテモ看ヨ。英国ナドハ埃及ヤ羅馬ノ古物ハ言フ迄モ無ク、印度ノ古物ノミニテモ一館ヲ建テ、今ハ印度ニテ見ラレヌ物マデモ、其ノ中ニハ堆積セリ。近比外国人ハ競テ日本古物ヲ買求ムレバ、此マヽニテ本邦ノ人ガ我ガ古物ヲ愛重スルコトヲ務メズハ、二三十年ノ後、泰西ニテ必ズ日本古物館ヲ建テヽ、却テ我邦ニテハ自国上代ノ物ヲ観ルコト難キニ至ラン。井蛙先生少シク注意シ給フ可シ。

英国ノ博物館中、支那古器ヲ多ク陳列セリ。其中ニ最モ驚ク可キハ王莽ノ剣ナリ。青玉ヲ以テ之ヲ飾ル。其玉ノ美ナル、余ガ曾テ見ザル所ロナリ。篆文ニテ黄室ノ二字ヲ刻ス。往年北京ヲ陥レタル時、清帝ノ御庫ヨリ奪ヒ来リシ物ナリト云フ。又仏国ノ古物家ニ日本ノ物ヲ愛スル人有リ。余其家ヲ訪フ一二次、我ガ古器ヨリ勾玉管玉ノ類迄驚クバカリ多ク貯蔵シ、且ツ皆貴重ス可キノ品ノミナリ。如何ニシテ之ヲ獲タルヤト問ヒシニ、皆戊辰ノ変、旧家覆滅ノ後、大阪ト横浜トニテ購ヒ得タリ。其ノ価ハ至テ廉ナリシト云ヘリ。我邦ニテ古今無双ノ古貨幣家タリシ旧福知山侯ノ蔵品ハ、長持幾棹トカ有リシモ、皆徃年普魯斯人某ガ神戸ニテ買ヒ去リシト。其蔵品目録ハ余ガ家ニモ有レド、今ハ空蝉ト同ジモノナリ。此等ノコトハ、交際上ニ於テハ毫モ論ズ可キコトニ有ラネド、尚古ノ道ニ取リテハ口惜キコトナラズヤ。

前ニモ言ヒシコトナレド、本邦ヲ始メ支那泰西ニ至ル迄、古代ノ物ハ如何程金銀ヲ惜マヌトテモ、多ク獲可キモノナラネバ、極メテ之ヲ愛護保存ス可キコトニテ、若シ放擲シ置ケバ尽ク外人ニ奪ヒ去ラルヽニ至ラン。有力者中好古ノ名有テ其ノ実無キ輩ハ、徒ラニ古クモ有ラヌ玉瓶瑶盃ニ千金ヲ費ヤシ、反故紙ニモ劣ル偽其昌贋徴明ナドニ流涎シテ、其嚢ヲ倒ニスルハ愚カナルコトニコソ。

青空文庫情報

底本：「雑誌叢書6　花月新誌　第二巻」ゆまに書房
　　1984（昭和59）年11月21日発行
初出：「花月新誌　第廿九號」花月社
　　1877（明治10）年11月18日発行
　　（第二号）「花月新誌　第三十號」花月社
　　1877（明治10）年11月29日発行
※「旧字、旧仮名で書かれた作品を、現代表記にあらためる際の作業指針」に基づいて、底本の表記をあらためました。
※ただし、仮名遣いは底本どおりとしました。
※底本には句読点がないので、「柳北全集」（「文藝倶楽部」第三巻第九編臨時増刊、博文館、1897（明治30）年7月発行）を参考にしつつ、入力者の判断により適宜句読点を補いました。
※合字「トモ」は（「異ナレドモ」「雖ドモ」「然レドモ」の箇所）「ドモ」に、合字「コト」は「コト」に（「笑フ可キコト」「貴重スルコト」「注意ス可キコト」「夢視セザルコト」「有リシコト」「愛重スルコト」「此等ノコト」「論ズ可キコト」「言ヒシコト」「愚カナルコト」の箇所）、合字「シテ」は「シテ」に（「如何ニシテ」の箇所）置き換えました。
※変体仮名は、すべて通行の仮名に置き換えました。
入力：平井華恵
校正：合山林太郎
2011年3月13日作成
青空文庫作成ファイル：
　このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

好古小言

※［＃「さんずい＋（壜－土へん－厂）」、第3水準1-87-25］上漁史

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/